

収穫感謝祭

四谷の
千枚田だより



第 183 号

**みんなで感動! さあ~つかまい
感謝を込めて 餅つきを!**

今年も収穫を感謝し、餅つきや各種物品販売、生演奏によるコンサートでの地域内外の集客を図り、地域の人たちが一年に感謝できるイベントを企画しました。

師走の一日を皆んなで楽しみましょう



開催日 平成 30 年 12 月 9 日(日)
午前 10 時から午後 2 時まで
場 所 四谷の千枚田「ふれあい広場」
主 催 鞍掛山麓千枚田保存会
共 催 棚田っ娘&地域の皆さん
ふるさと指導員

この、イベントは皆さんの協力金で
賄われております
どうぞ お気軽にご協力ください



景観環境整備

十一月十八日、保存会は収穫感謝祭を視野に、午前中は草刈り作業を、午後は老朽化した六つの木橋の防腐剤塗り(資材はふるさと指導員活動支援)を行政、ボランティアを交え、実施した。

四谷の千枚田にある六つの木橋の防腐剤塗りの作業があると聞き、ボランティアで初参加しました。毎年、十二月に開かれる四谷の千枚田の収穫祭、今までは千枚田にかかわっていた鳳来湖の管理人河西忍さんが誘ってくれて行っていたけど、河西さんが亡くなり、私としては千枚田の収穫に貢献していないので、今年も行つていいのかなあと思っていて、ちょうど良いタイミングでボランティア募集。保存会の方々とお話もできて、行つてよかったです。日本の棚田百選にも選ばれている新城の四谷の千枚田。保存のための努力や仕事はたくさんあって、観光で「わあ、良いところだなあ」ってところから、それを機会に一步身近に、保存されている方々の努力を知ったり、環境保全に何かお手伝いできたらいいのではと思いつきました。昨日は観光に来ていた人が、保存会の方に声をかけ、保存会の方は急な声掛けにも関わらず答えていて、最後には「また、おいでんよ」と言っていました。そこで暮らし、保存している方たちの努力は、観光だけでは見えません。そういう方にはこれ保存会の小山さんが毎月発行している「四谷の千枚田だより」(千枚田の千枚田だよりで検索)に千枚田の情報が載っています。そうそう、映画「あん」の時の希林さんの話も聞きました。保存会の皆さんの暖かいお気持ちがとてもうれしかったです。ボランティア 伊藤得代



防腐剤塗布 …今、塗るときゃあ丈夫だ♪…



ボランティア 大谷拓郎さんの挨拶に聞き入る

生産品の出荷

日本三大石積みみの棚田と謳われ、国民の癒しの場としての知名度は益々高まるが、これを守り、耕す耕作者には過酷な条件が伴うし、その割にメリットも少ない。この、実情を重く受け止め、保存継承に少しでもお役に立てばと横浜ゴム新工場と丸八製菓の二社が耕作者に対して大きなご厚意を戴いている。

十一月七日、横浜ゴムへ稲藁の出荷。稲藁は環境を重視し、植栽した幼樹の敷き藁に活用される。

十一月十四日には丸八製菓へ古米を出荷した。古米は「千枚田五平餅」に加工され、郵便局の宅配便や道の駅、大手百貨店などで好評を博している。棚田の百姓は、おかげさまで、肥料代にもなるし、耕す楽しみが増えだえん…と喜んでい



また盗まれちゃった

十一月十九日、仮設トイレの掃除に行ったら、竹ん壺で作った協力金箱が盗まれちゃった。過去にもチェーンやワイヤーで留めて置いて、切って持って行かれちゃった。

トロイ頭で色いろ考えて、孟宗竹の根っこで長くつくりゃあ、重くて持つていきあせんかと思ひ、作つてみたが、余つ程、銭を欲しいのか、また、病なのか？

環境日本一を誇る「四谷の千枚田」の仮設トイレ、皆さんのご厚意、浄財金を盗つていったドロボウさん、一生、心が病めるだに… 身体に気をつけりゃア…

ようきたのん

〜癒しの空間「四谷の千枚田」
雪隠場がきれいだと心が和むと思つてのん：
汚れた雪隠はいい匂がせんもんで毎日掃除をしとるだえん。
用を足したら「脚踏」を踏んで流しておいておくれん 助かるだに…
竹ん壺へ気持ちを入れてくれりゃあ 備品が買えてうれしだのん。



17.12.9～
18.6.8までの浄財金…殺虫剤や芳香剤を購入…

新嘗祭

十一月二十三日、余剰米(古米)の出荷などでお世話になつてい「丸八製菓」さんが、三河之国砥鹿神社において収穫のお礼と、来年の豊作を祈願する「新嘗祭」を行いました。厳肅な新嘗祭に筆頭の座を務めさせていただいたことに感謝いたします。

視察対応

十一月二十五日、坂本棚田(三重県亀山市)から耕作者、行政の方々総勢二十二名が四谷の千枚田を訪れた。市鳳来総合支所地域課、保存会員がお迎えして、身平橋集会所を会場に棚田継承、取り組みなど、多岐にわたり意見交換を行った。

坂本棚田では「中山間等直接支払制度」施行と同時に坂本営農組合、また、坂本棚田保存会を発足。営農組合の取組の特色は、共同利用機械として草刈機、トラクター、畔ぬり機を導入、除草作業や耕耘作業など、農作業の共同化、継続困難の農地の保全管理も組合が引き受ける体制を整備。また、超急傾斜地保全管理加算の取組として石積の補修、所得向上を視野に「亀山坂本棚田米」の付加価値とした

共通パッケージを作成、イベントなどで販売、成果を上げている。坂本棚田保存会は、県内の企業ボランティアを呼び込み、棚田の保全活動や石積み体験、ソバ打ち体験などのイベントを実施している。等々、有意義な意見交換がなされ、見習うべき事柄が多かつた。坂本棚田の皆さん、大変な財産を背負い込んだと思ひ、お互いに頑張りましょう。



発行

平成三十年十二月一日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二